
政策提言報告書

こおりやま広域圏
チャレンジ「新発想」研究塾 2023

目次

◆ チャレンジ「新発想」研究塾とは	3
◆ 活動の経過	5
◆ 報告会	9
◆ Look Back 研究塾を振り返って	12
◆ 関係資料	14
▪ 研究塾生名簿	
▪ こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱	

チャレンジ「新発想」研究塾とは

住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、**新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査**

研究を行うとともに、こおりやま広域圏の**若手職員の政策形成能力の向上**に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾（以下「研究塾」という。）を設置しています。

チャレンジ「新発想」研究塾とは

本市では、これまでも若手職員による政策研究会を設置し、新たな行政課題解決や、職員の政策立案能力向上に取り組んできました。

2018年度（平成30年度）からはこおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）の

連携事業として、こおりやま広域圏の市町村職員に対象者を拡大し、今年度は、郡山市・須賀川市・二本松市・田村市・本宮市・大玉村・天栄村・浅川町の**8市町村の若手職員13名**で取り組みました。

若手職員による政策研究会の変遷

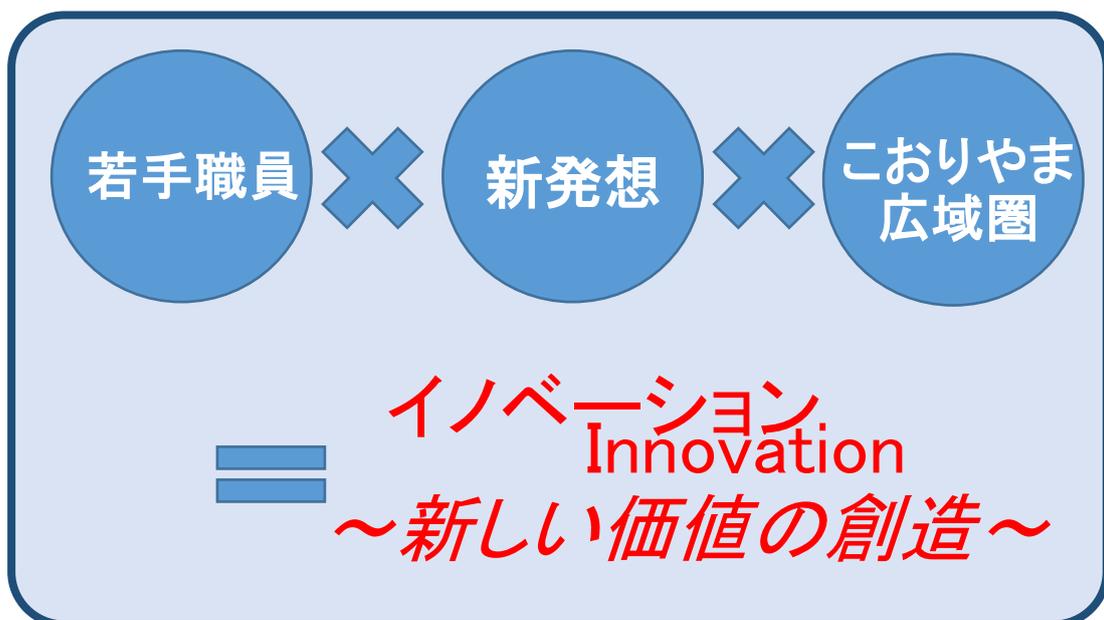
平成8年度～平成17年度 『きらめき21推進研究会』

平成18年度～平成24年度 『ハーモニー推進研究会』

平成25年度～平成29年度 『チャレンジ市役所「新発想」研究塾』

平成30年度～ 『こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾』

塾生の対象をこおりやま広域圏17市町村に拡大！！



こおりやま広域圏とは

こおりやま広域圏とは

郡山市を中心に、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町の5市8町4村で形成する「こおりやま広域連携中枢都市圏」のことです。17市町村それぞれの強みや資源を生かし、人・モノ・情報が行き交う歴史的・文化的にも結びつきが強い地域です。



17市町村のネットワーク

人口減少・少子高齢社会の進展により、地域における行政サービスの質の維持が難しくなることが予想されています。

そこで、近隣市町村が互いに手を取り合い、協力して圏域内の行政サービスを提供するな

ど、「ONE TEAM 17」の精神のもと、互いに地域の良さを尊重し、「広め合う、高め合う、助け合う」関係を構築し、圏域の皆さんが、将来も安心して快適に暮らせる地域づくりを目指しています。



活動の経過

年間スケジュール

6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月	
上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬
開講式・オリエンテーション							交流会								報告会
		調査・研究													
先進地視察															

開講式・オリエンテーション【2023年6月】

開講式は、対面とオンラインを併用し、6月29日に開催しました。

今年度は、郡山市4名、須賀川市2名、二本松市1名、田村市2名、本宮市1名、大玉村1名、天栄村1名、浅川町1名(男性7名、女性6名)の計13名の意欲あふれる若手職員が公募により集まりました。

開講式では、塾生の紹介を行い、本研究塾の塾長である品川市長から激励をいただきました。その後、事務局より今後のスケジュールや課題抽出の進め方などのオリエンテーションを行いました。



調査・研究スタート(7月～1月)

<基本的な進め方>

- ・開催頻度、時間は塾生にて調整を行う。
- ・対面、オンラインを併用し討議を行う。
- ・討議内容は、記録票にまとめ、進捗等を事務局へ報告する。



①調査研究テーマの方向性を決める

1 班：若者就業支援

2 班：こども施策

3 班：ゴミ問題

各グループは、まず具体的な調査研究のテーマ設定に取りかかりました。

こおりやま広域圏が抱える課題等を元に、様々な地域が置かれる現状を調査していくことで、お互いの興味関心を踏まえ、調査研究の方向性を決定しました。

②提案内容について具体化する

次は、具体的な提案内容について検討しました。課題は何なのか、その課題解決となる手法について、先進事例などを調査し、そして「こんな事業があったら面白い」と若手職員らしい『**新発想**』を迫りました。

交流会(9月)



調査研究の進捗状況の共有及び昨年度塾生からのアドバイス、班の垣根を越えた交流等を目的として、9月に開催しました。

先進地視察の実施(11~12月)

研究テーマに基づく実際の取組を知るため、現地視察とオンライン視察を実施しました。視察先の選定やアポイント等についても塾生が行いました。各グループともに行政のみならず、

民間団体への視察も行い、幅広く知見を深めました。この取組を通し、塾生同士の連携・つながりをさらに深めることができました。

1 班(若者の就業支援)

1班は広域圏の「若者の転出超過」という現状に注目し、将来「持続的に経済産業が発展し、誰もが住みやすい広域圏」となるよう、若者の地域への愛着向上に資する先進事例として、地元企業への認知度向上、地域へのつながり創出を実施している自治体を視察しました。

京都まなびの街生き方探究館

(現地視察)

産学公連携の下、小・中学校段階から子どもたちに勤労観、職業観を育む「生き方探究教育(キャリア教育)」について



探究館視察の様子

京都府 仕事と育児の両立体験プログラム

(現地視察)

大学生と地域の繋がりをつくり、将来その地での生活をイメージするための家庭インターンシップについて



京都府庁前での集合写真

2班(こども施策)

2班は、広域圏の課題を解決しうる各市町村の長所を活用し、流出が多い子育て世代が広域圏に住みたいと思えるよう、広域圏の未来を創るこどもたちが中心となる施策を検討すべく、地元の魅力発信や地域のにぎわいをこどもの視点から実施している先進地を視察しました。

八尾市政策企画部やおプロモーション・ 万博推進プロジェクトチーム(現地視察) 株式会社キッズスター(オンライン視察)

Childgram(子ども目線の広報誌制作)の先進事例である、小学生が記者となり八尾市の魅力を発信する「ジモトガイド」について

みせるばやお(現地視察)

Makids(子どもと企業の地元特産品の新商品開発等)の先進事例である、様々な企業が合同で実施する体験型ワークショップ等について



みせるばやお視察



みせるばやお担当者様と
集合写真

3班(ゴミ問題)

3班は、県内のゴミ問題の中でも難易度が高い生ゴミ削減策のコンポストに注目し、住民単独ではなくコミュニティを構築することで解決する先進事例を見つけ、視察を行った。

鎌倉市役所環境部ごみ減量対策課 (現地視察)

人口10万人以上、50万人未満の市町村の中で、リサイクル率全国1位である鎌倉市のごみ減量対策、リサイクル率アップのための取り組みについて

町田市バイオエネルギーセンター(現地視察)

ごみ減量の対策の一つである生ごみのバイオガス化について

おかえり株式会社(現地視察)

材木座コミュニティコンポストプロジェクト(コンポストを利用したコミュニティづくり)について



町田市バイオエネルギーセンターにて集合写真



コンポスト体験の様子

報告会

将来を担う若手職員による政策提言！！

6月に研究塾が開講して以降、約7か月間におよぶ調査研究、先進地視察を行ってきた成果について、1月31日に市町村長を始め、職員、インターンシップ生、視察先関係団体等に広く公表しました。こおりやま広域圏各市町村をオンライン（Zoom・YouTubeによる同時配信）で繋ぎ、対面とオンライン併用で実施しました。

今年度は、各班が「若者就業支援」「こども

施策」「ゴミ問題」という課題を研究し、1班は、「“そうぞう”しよう人生をここで～make the future for you and you～」、2班は、「Chilgeyes～広域圏にぎやかプロジェクト～」3班は、「ecomu.(eco × community)」をテーマに政策提言を行いました。報告会を迎えるまで、リハーサルを重ね、内容だけでなく、誰もが興味を抱くようなプレゼンテーションとなるよう工夫を凝らしました。



発表の様子



集合写真

代表挨拶【郡山市 山田 俊幸 さん】

昨年6月の開講式以降、こおりやま広域圏として取り組みたいと考える新たな政策提案に向けて、8自治体13名の研究塾生が3班に分かれ、議論を重ねるとともにテーマに関連する先進地視察を行い、研究を進めて参りました。

7か月間の活動を振り返りますと、普段は他自治体の職員である塾生同士が、同じ目標に向かって議論を重ねる、貴重な経験をすることができました。この経験を活かし所属自治体やこおりやま広域圏に貢献していきたいと思っております。

提案概要

1班(若者の就業支援)「“そうぞう”しよう人生をここで～make the future for you and you～」

○課題:若者の転出超過

提案内容「こおりやま広域圏デジタルプラットフォームアプリ 広域圏でこういきよう」
・広域圏でどう生きる(イベントマッチング事業)

対象:小・中学生

自己分析→AIでイベントとマッチング→イベント体験→フィードバック→報酬をもらう

参加者⇒就活に必要な能力を身につけられる。なりたい職業と現実の差を知ることができる。地域の人からのアドバイス。働いた後報酬をもらえる体験

企業・自治体⇒学生の動向をつかむことができる。ニーズに合わせたイベントを開催できる

・広域圏に暮らしたインダーン!(家庭ヘインターン事業)

対象:高校生・就活生

育児を行っている家庭にインターンに行き働きながら育児をするイメージをつかんでもらう

参加者⇒家庭のリアルな体験をしてもらうことによって働くだけでなく、その土地で生活すること・長期的な未来の自分の姿を考え・想像できる。

協力家庭⇒受け入れた際にポイント付与され、そのポイントが報酬となる(受け入れに関しては行政サポート)

将来的には、企業主導で実施してもらいたい。

・広域圏から仕送り隊(特産品の仕送り事業)

対象:社会人

市内市外問わず地元の特産品・名産品を仕送りする

参加者⇒名産品・特産品がもらえる。代わりにアンケート等に協力

企業⇒アンケート等のデータを入手できる。

行政⇒市内市外の人に地元の良さを知ってもらえる

○目標



2班(こども施策) 「Chilgeyes～広域圏にぎやかプロジェクト～」

○課題 街中の賑わいが少なく子どもが地域に愛着を持ちづらい

○提案内容 「Chilgeyes～広域圏にぎやかプロジェクト～」

・Childgram

こども目線の写真(広域圏の推しの物・場所など)→福島県内へ配布・県外へはデジタルガイドブックでアピール

対象:①取材→小1～3年生 ②編集→小4～6年生

こども目線(新たな視野)の提供→発見

・Childrally

こどもたちが写真を撮りながら広域圏でスタンプラリーを楽しむ

撮った写真は Childgram に使用

家族全員を巻き込むことで、地域の活性化・こども視点の新たな魅力の発掘

・Makids

こども(Kids) × 企業と作る(make)

コラボ商品の開発

参加者(こども)⇒成功体験。プチ夢が叶う

企業⇒新たな発想

・Kids マ!

こどもが運営する商店街。各市町村の特産品、Makids で作成した商品を生産者が販売。

子供たちの工夫が・・・

成功⇒成功体験

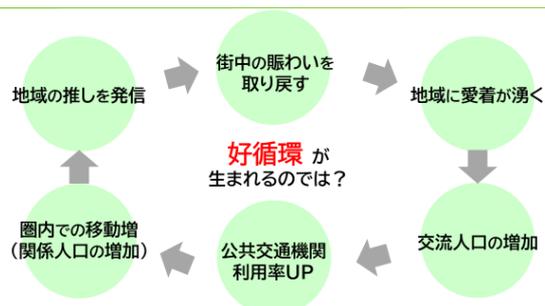
失敗⇒教訓学び

さらに、多世代交流が可能。

・事業活性化に向けて、共通通貨の導入(こおりやま広域圏コイン)

Childgram、Childrally、Makids で貯め、Kids マ! で使用。

○目標



3班(ゴミ問題)「ecomu.(eco × community)」

○課題 福島県のごみの排出量やリサイクル率が全国でワースト上位

○提案内容「ecomu.(eco × community)」

・ecomu academy

対象:小学生

コンポストアドバイザーの派遣、コンポスト設置費用の助成

想定費用 講師派遣 1,000 千円(10 遷延×100 回)

コンポスト製作費 5,900 千円(100 千円×59 市町村)

・ecomu club

対象:高齢者

公共施設でコンポストの定期講座を実施、コンポストを通じて世代・地域間交流を促進

想定費用 講師派遣 1,000 千円(10 千円×100 回)

・広報(コンポストについて HP やフリーペーパーを作成、SNS で情報発信)

→各コンポストコミュニティを紹介

・適性診断作成

フローチャートを作成し、質問に答えてもらうことで、それぞれの特性を踏まえたおすすめコンポストを紹介

・コンポストセンター

相談窓口でコンポスト活動のサポート、コミュニティコンポスト実施団体紹介

センター内に個別コンポスト管理スペースを設けて一緒に管理(共同コンポスト)、畑を併設しつくった堆肥で農作物を育てる→育てた農作物を使用しオフ会→コンポストを通じた交流の場と資源の循環を体験

・堆肥・乾燥ごみ交換会

マルシェイベント等で堆肥・乾燥ごみの交換会を実施。堆肥1kg、乾燥ごみ 500gにつき、100 円相当の野菜と交換可能

・スマホアプリ「こんぼさん」

適性診断等のアクティビティ、コンポスト情報交換機能、堆肥受け入れ先マップ

・支援制度

コンポスト購入代金の 90%を助成。(上限3万円、電動は 75%)

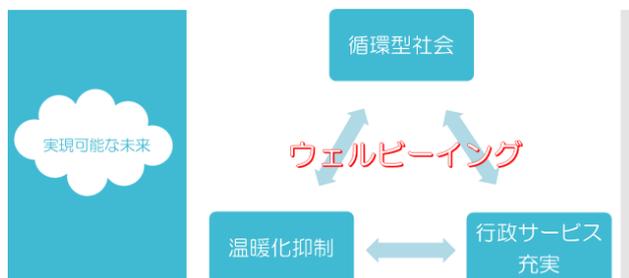
グループで使用する大型コンポストの購入代金や設置費用、コミュニティ運営費等を助成。(上限 100 万円、年間事業費の 2/3 以内)



～ ecomu. ～

1人では解決できないゴミ問題について、コンポストを通して人と人がつながる、新たなコミュニティの形を提案します。

○目標



Look Back 研究塾を振り返って

研究塾が終わり、今の心境や活動期間を振り返っての様々な意見を聞かせてもらいました。

— 実際に研究塾に参加してどうでしたか？

- 経験が浅い職員だからこそ、学ぶことも多く、固定概念に囚われない自由なアイデアが出せるので、このタイミングで参加できたことは貴重な経験になった。普段、所属や自治体の壁を越えて活動するということはほとんどないので、新しい刺激になったり、交流の場が広がったりと得るものは多かったように感じる。
- 3年目に施策の検討という経験を積むことができたのは、貴重でありとてもありがたいことだと感じた。今回私の班は環境という課題について検討したが、最初は行き詰まることが多く焦ることもあった。しかし、発表を終えてみると、お褒めの言葉を多く頂き、最後までやって良かったなと大きな達成感を得ることができた。
- 私は今年度で6年目、28歳なのですが、班員の方々が22、23歳で2年目ということで、まさにZ世代と真ん中の塾生との交流は(そんなに大きく年齢は離れていないですが)、色々な考えがあるなあと気づきの連続でした。若いパワーに触発され(?)自分自身も、視野を広く持ちながら取り組むことができました。純粋に活動自体も楽しかったですし、仲良くなれたのが何よりよかったです。
- 自治体職員としてまちをより良くするために持っていた夢をより現実に近い形で表現・共有することができたところです。日々の業務ではなかなかできない経験をさせていただきました。また、他自治体の職員と交流し、目標をもって活動したことで深い繋がりができたことは、これからの大きな財産になったと感じました。

— 先進地視察の感想を教えてください。

- 現地視察を行うことで研究のクオリティを向上させることができた。現地に行くことで、他自治体の職員の事業に対する想いや職場の雰囲気を感じ取ることができた。また、現地の特性(文化・観光・交通等)も知ることができ、研究を更に深めることができた。こういった事はオンラインでは得られない経験だと思う。
- 現地視察がただ見学するだけで、意見交換ができるほど余裕がないのであれば、オンライン視察で視察場所を増やしても良かったかなと思いました。中間発表直後の先進地視察となったのですが、先輩方のアドバイスを聞いた後¹⁴だったのでとてもよかったです。
- 現地での視察を通し、担当者からの話を受けることでより先進事例の理解を深めることができた。また、担当者の厚意により、先進事業を進めていく中で連携している民間企業からの話も聞くことができ、有意義な時間にすることができた。
- 個人的には厳しいスケジュールだったが現地に何うことができ良かったと感じている。また、視察に関して事務局の助けもあったが班内で担当を決めて実行できたのでスムーズに視察を行う事ができた。

— この経験をどのように活かしていきたいですか？

- こおりやま広域圏の現状と課題の把握から、新しい視点で他自治体の職員と自由に政策を考えることができる貴重な経験をさせていただきました。仕事をこなすことが当たり前になっていた毎日でしたが、研究塾で新しい政策・面白そうな政策を考えている時間は本当にワクワクしました。常にチャレンジ精神を忘れずに日々の業務に取り組み、今回得た他自治体の職員の方々との縁をこれからも大切にしていきたいと思います。
- 研究塾の活動を通して、自分の経験値を大きく更新できたので、今後の仕事にはもちろん、今回のような自治体同士の活動にも積極的に参加し、自自治体に還元していきたいと考える。
- ひとまず、班として提案が形になり、発表することができたので、ほっとしました。と同時に、政策を提案するには、本当に知識をつけることが大事だなと感じました。本業に戻っても、情報に敏感に、よりよい市民サービスに向けて精進したいと思いました。

— 皆さん、ありがとうございました。

●約半年間の活動お疲れさまでした。塾生同士の交流は広域圏各市町村のネットワークでもあるので、このつながりをぜひ皆様の次の活動に生かしていただければ幸いですし、もっと各市町村として研究塾に関わりたいという意見があったこと、とても嬉しく思っております。今後とも、一緒に広域圏の未来をつくっていきましょう。

塾生の皆様からは、所属及び班員への感謝が見受けられ、皆様の視野の広さ、謙虚さを感じております。次に塾生になる方が皆様の近くに現れるかもしれないので、その際は皆様が感じたような必要なサポートを行い、恩送りをしていってください。

通常業務と並行して研究塾を経験した皆さんのさらなる活躍を期待します。

研究塾生名簿

▼1班

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	環境部 環境政策課	主事	山田 俊幸
2	郡山市	こども部 保育課	主事	大槻 紗也夏
3	二本松市	総務部 税務課	主事	村上 緑輝王
4	田村市	総務部 財政課	主事	渡部 詩音
5	本宮市	財務部 税務課	副主査	神野 菜弥子

▼2班

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	文化スポーツ部 スポーツ振興課	主事	熊谷 隆雅
2	須賀川市	教育委員会事務局 こども課	主事	水野 希美
3	天栄村	総務課	主事	山口 詩織
4	浅川町	住民課	主事	新沼 稜大

▼3班

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	教育総務部 生涯学習課	主事	白渡 綾
2	須賀川市	市民福祉部 健康づくり課	主任	小笠原 廉
3	田村市	市民部 税務課	主事	橋本 怜奈
4	大玉村	総務課	主査	伊東 伸晃

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱

(設置)

第1条 住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査研究を行うとともに、こおりやま広域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾(以下「研究塾」という。)を設置する。

(調査研究事項等)

第2条 研究塾は、広域連携により効果的に解決すべき課題について、次に掲げる事項を調査研究し、その成果を郡山市長及びこおりやま広域圏各市町村長に報告する。

- (1) 住民福祉の増進につながる取組み
- (2) 自主的・自立的なまちづくりのための取組み
- (3) 先導性・モデル性のある取組み
- (4) こおりやま広域圏の発展に資する取組み
- (5) ICT 利活用による取組み

(組織)

第3条 研究塾は、公募または各自治体の所属の長が推薦する研究塾生をもって構成する。

- 2 研究塾に代表及び副代表1人を置き、研究塾生の互選によって定める。
- 3 代表は、研究塾を代表し、会務を総理する。
- 4 副代表は、代表を補佐し、代表に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 会議は、代表が招集し、代表が会議の座長となる。

2 代表は、特に必要があると認めるときは、研究塾生以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(研究班)

第5条 研究塾に調査研究事項に応じ、専門的に調査研究を行うため、政策開発部長が定める数の研究班を置く。

- 2 研究塾生は、いずれかの研究班の班員となる。
- 3 研究班に班長及び副班長1人を置き、班員の互選によって定める。
- 4 班長は、研究班を代表し、その事務を掌理する。
- 5 副班長は、班長を補佐し、班長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 6 研究班の会議は、班長が招集し、班長が会議の座長となる。
- 7 班長は、特に必要があると認めるときは、会議に班員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。
- 8 班長は、関係課等の長に、調査研究上必要な資料等の提供を求めることができる。

(各課の協力)

第6条 課等の長は、研究塾における調査研究の過程において、必要な説明、資料等の提供を求められたときは、速やかにこれに応じるよう努めなければならない。

(庶務)

第7条 研究塾の庶務は、政策開発部政策開発課において処理する。

(委任)第8条 この要綱に定めるもののほか、研究塾の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年8月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月13日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月25日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年7月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年6月11日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾2023

政策提言報告書

令和6年3月発行

編集・発行 郡山市政策開発部政策開発課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

T E L 024-924-2021

F A X 024-924-2822

E - m a i l seisaku-kaiatsu@city.koriyama.lg.jp

本市ウェブサイトからも
ご確認いただけます。

